

年頭挨拶

衆議院議員

中谷 真一



年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

まずは昨年10月の衆議院議員総選挙においては皆様に大きなお力を頂き厳しい選挙ではありましたが5期目の当選を果たすことができました。心から感謝申し上げます。

さて、世界を取り巻く安全保障環境は悪化をしています。ロシアによるウクライナ侵攻は1000日を超えても

その終息は見通せないばかりでなく、北朝鮮はロシアを支援するため自国軍をロシアに派遣し、ウクライナ領内への攻撃に参加させる等、関与する地域も広がっています。また、イスラエル、パレスチナによる戦争もヒズボラ、イランなども加わり、中東において広域化しており、これも終息が見通せない状況が続いている。

さらに米国で大きな変化が起きました。トランプ大統領の再選です。これも安全保障環境に大きな影響を与えることになるでしょう。

トランプ大統領は選挙中から大統領がウクライナへの支援を止めると言つており、これを実行に移すことによりウクライナは戦争を継続できない、さらにウクライナのNATO入りをさせないことによりロシアとの停戦交渉に臨むことになるのではと予測できます。そして、ヨーロッパにおける戦争を終わらせ、東アジアに集中していくことになります。中国に対しては軍事、経済における対立をさらに激化させることになるのではと考えます。この状況において日本の取るべき進路を明確にする必要があります。

まず日本は自国の防衛力を高めなければなりません。現在、大幅に防衛力

強化をはかることとなっていますがトランプ大統領は同盟国に対し、さらなる引き上げを要求してくる可能性があります。只、私はこれをチャンスととらえており、軍事における対米依存を軽減し、日米関係を新たなステージへと引き上げるものと考えます。

さらに台湾に対しては、米国主導で行う、事前の経済的支援、軍事的支援を日本として最大限支援することにより、中国が台湾に侵攻することを諦めさせるように仕向ければなりません。

またASEAN、太洋州、インドとは東アジア版NATOを目指して、関係強化に努めなければなりません。東アジアはそこまで成熟していないとか、中国を刺激するなどの理由で異を唱える向きもありますが最初からガチっとしたものでなくともいいので、始めることが大切です。ちなみに相手は始めております。

この東アジアでリーダーシップを取ることができるのは日本です。このことを念頭に日本の安全保障を支える決意です。

皆様の引き続きのご指導を宜しくお願い致します。